

世界チャンピオンに一輪車を教わった！

徳島・三好市立下名小

運動会で新しい技を見せたい！——。徳島県三好市立下名小学校(西浦智代校長)で8月29日、全校児童12人が参加して、ベルマーク財団のへき地校支援プログラム「一輪車講習会」が開かれました。

吉野川の名勝「大歩危峡」にも近い山あいの小学校。妖怪「子泣き爺」の故郷、といわれ、近年は「妖怪伝説」による町おこしに力を入れていて、子どもたちも子泣き爺のコスプレで「妖怪フェスティバル」に参加したり、妖怪にちなんだお菓子のレシピを考えたりしているそうです。



地域のお年寄りたちも交えて9月に合同運動会を開きますが、そこで披露する一輪車の演技を6月中旬から練習していました。児童数は2年生2人、3年生1人、4年生3人、6年生6人の計12人。今年度はベルマーク財団のへき地校支援で一輪車6台の寄贈も決まり、「講習会」開催へと話が進みました。



先生役は日本一輪車協会インストラクターの鈴木奈菜さんと須郷真弥さん。2人とも世界大会で優勝した

経験もあるエキスパートです。まずは音楽に合わせての模範演技。2人の息もぴったりで、繰り出される高度な技の数々に、子どもたちの目は釘づけ。

続いて一輪車の仕組みや安全な乗り方、サドルの高さといった基本を学びます。先生たちも含めてどよめきが起ったのは、ペダルに置く足の位置について。土踏まずではなく、もう少し前、足の幅が一番広い部分で踏むと格段にバランスが良くなり、動きやすくなるのです。



大半の子どもたちが一輪車に慣れており、次々と連続技に入っていきます。「いいね、いいね」、「お、バッチリ！」。先生たちからの声に、子どもたちも嬉しそうです。2人一組で手をつないだり、つなぎかえたり、片手を離して回転したり、逆回転に移ったり。子どもたちは息を弾ませつつも、目を輝かせていました。

授業の後、鈴木さんは「練習を繰り返せば技は絶対にできるようになります」、須郷さんは「周りを見て落ち着いてやるのが大事です」とエールを贈りました。4年生の大黒冬真くんは「失敗もあったけど色々なことを覚えました」、6年生の上谷玲七さんは、「2人が本当にかっこ良かった」と話しました。翌週に届いた校長先生からのメールには、刺激を受けた子どもたちが「休み時間に運動場で自主練習に取り組んでいます」と書かれていました。



授業の後、鈴木さんは「練習を繰り返せば技は絶対にできるようになります」、須郷さんは「周りを見て落ち着いてやるのが大事です」とエールを贈りました。4年生の大黒冬真くんは「失敗もあったけど色々なことを覚えました」、6年生の上谷玲七さんは、「2人が本当にかっこ良かった」と話しました。翌週に届いた校長先生からのメールには、刺激を受けた子どもたちが「休み時間に運動場で自主練習に取り組んでいます」と書かれていました。

和歌山・田辺市立大坊小

標高180メートルの高台に位置し、田辺湾や白浜を一望できる景勝地に、田辺市立大坊(おおぼう)小学校(玉井朋子校長)があります。明治6年(1873年)創立で140年以上の歴史があります。現在の児童数は20人で、今年3月に木造の新校舎が完成しました。周囲は「大坊みかん」で知られるみかん畑や梅園が広がり、自然が豊かな場所です。



9月4日の一輪車講習会は、国際大会や全日本大会で優勝や数々の入賞経験がある鈴木奈菜さんと、大学2年生ながら国際大会と全日本大会のトラックレース部門でともに4連覇中という現役の世界チャンピオン、高田朝日さんの2人が講師です。高田さんは100メートルと400メートルの世界記録ももっていて、昨年の国際大会ではフリースタイルペア演技でも妹さんと組んで優勝した第一人者です。

講習会ではまず、多目的ホールで2人が模範演技を披露しました。フィギュアスケートのような華麗な高速スピンの、児童たちは息をのんだまま、あっけにとられたようで声も出ません。「反応していいよ」と促され、ようやく「すごい」の声とともに大きな拍手がわきました。



この後、校庭で実技指導。同小は30数年前から一輪車に取り組んでいて、体育の授業や2校時と3校時の間の「業間体育」の時間に練習しているそうです。9月21日の地区の運動会でも演技を披露します。



まだうまく乗れない1年生は鉄棒につかまりながら練習を始め、3・4年生はメリーゴーラウンドやループ、5・6年生は片足走行や王冠と呼ばれる輪になっての演技に取り組みました。補助なし乗車に初めて成功した2年生の坂本結愛(ゆな)さんは「足をどうもっていくかを教わった。一人で乗れてうれしい」。5年生の坂下彰希(あき)くんは片足走行でバランスを取りながら反対側の足を斜めに伸ばして進む技に成功し、「いろいろな技を覚えるのが楽しい」と声を弾ませました。

最後に、運動会で披露する一輪車での入場行進や演技についてアドバイスや実技指導を受け、3時間半ほどの講習会が終了しました。玉井校長は「プロの方からこうした指導を受け、子どもたちは貴重な体験をさせてもらいました」と話しました。学校を引き揚げる



際には、数人の児童が玄関に見送りに出て、「世界チャンピオン！」と講師に握手を求めています。

岡山・真庭市立中和小

B級グルメ「ひるぜん焼そば」でも知られる西日本有数のリゾート地・岡山県の蒜山高原にほど近い山間に、真庭市立中和(ちゅう・か)小学校(木田訓祥校長)があります。校庭の一角には、古い由緒をもつ中和神社が鎮座し、シンボルの三本杉「ほこ杉」が天を衝いています。実はこの神社、2010年に惑星探査機「はやぶさ」がエンジントラブルを起こして帰還が困難かと思われたとき、エンジンの重要部品「中和器」と名前が通じる縁で、スタッフが無事帰還を祈って参拝したところ見事に願いが叶い、「道中安全の神様」の名を一躍高めたというエピソードがあります。



一輪車講習会は9月26日に開かれました。全校児童23人が体育館に集合。「おはようございます！」と大きな挨拶が響きます。先生は一輪車の世界大会でも優勝経験のある鈴木奈菜さんと須郷真弥さん。次々と披露される技に、子どもたちは「うわっ!」「すごい!」「へ



え!」。音楽を使った競技会形式の演技には、大歓声と大拍手がしばらく鳴りやみませんでした。

一輪車が16台しかないこともあり、まずは乗れない子に乗れる子が手伝いで付きます。体育館ステージの縁に手をつけて、乗り方やサドル上の姿勢とバランスを体で覚えていきます。「背中を伸ばして」「まっすぐ前を見て」。一輪車の基本のキともいえる「姿勢」についての注意が何度も飛びます。

後半は初心者組と中級者組に分かれて練習。中級者組は真っすぐ進んで壁まで行き、正しく安全に降りることに何度もトライします。早くできた子はアイドリングにも挑戦しました。



最後は整列して「振り返りタイム」です。「何か言いたい人？」という先生の問いかけに次々に元気な手が上がります。「支えがあっても落ちるか怖かったけど、今日でちょっとやる気が出ました」(1年・田中美安さん)、「8の字走行も宙乗りもとても難しかった」(5年・森田晴喜くん)、「一輪車は苦手だったけど、今日楽しいことが分かった」(3年・鈴木ひなさん)。

言葉の一つ一つに笑顔でうなずきながら、鈴木さんは「この短い時間でみんなすごく上手になりました」、須郷さんは「みんなが同時に乗って進んで、降りられたらとても楽しい。チャレンジしてみてください」と励ましの言葉を贈りました。

